

育児、保育、教育に大事な待つ勇気！

元マラソンランナーでタレント松野明美さんの次男はダウン症で重い心臓病も患っている。

マラソンに挑戦する母子の 1 年間取材したドキュメンタリー番組「健ちゃん ヨーイドン！ ～松野明美 ダウン症のわが子を抱いて～」を見た。

障害のある子どもを持った親の心理過程については、当 HP「受容への過程・仮説模式図－試作－（「雑学 BN」のレポート関係（I）、2004.06.16.：参照）で触れたことがある。

松野さんは、我が子が重い心臓疾患があることを知った時、「このまま死んだ方がいいかも…」とつい思ったこと、我が子の障害を知られたくないと公園デビュー（HP「雑学 BN」の講義等関係（I）、2003.03.09.「公園デビューコーチ制度（？）：参照」が難しかったこと、心臓手術等で我が子の命の大事さに気いたこと、障害のある親子の療育の集いとの出会で「ありのまま」でいいのだと気づかされたこと、我が子の将来のことを案じていること、等々のそれぞれの時期の母親としての心の揺れを、あの明るいキャラクターで赤裸々に淡々と告白していた。

松野さんは、6 才になっても発語が殆どなく、何でも頼りがちで周りも直ぐに手を差し伸べがちな我が子が、走ることにチャレンジする中で自立心やこれからの色んな困難に立ち向かう勇気等を育ててくれるのでないかと、走るのが苦手な我が子と走る練習を始める。

この番組で最も印象に残ったのは、地域のマラソン大会の親子の 1. 3 km のコースにエントリーした時のシーンであった。

他の親子はスタートしたが、健ちゃんは座り込み立とうともせず、母親におんぶせがんだりするが母は言葉で励まし、おんぶに応じず。

また、周りの大人は立たそうと手を差し出そうとすると、母は「そのままで…」と丁寧に断る。

数 m 離れた母からの度重なる声かけでようやく立って母の元に走り出す健ちゃん。

途中、何度も座り込んだり、立ち止まる我が子を母は横になり前になり何度も「ヨーイドン！」と励まし続け、他の親子がゴールして 20 分後によりやくゴールイン。

この松野さんの姿に、待つことの勇気（HP「雑学 BN」の随想等関係（V）、2006.09.25.「待つ勇気ある、とっても素敵な係わり合い方に拍手！」：参照）ある「オ母サン（HP「雑学 BN」の覚え書関係（II）、2007.11.06.「オ母サンのもつ機能、心の居場所、しつけ」：参照）」を見た思いがする。